

院内感染対策サーベイランス公開情報 NICU 部門

2010 年報 (1 月～12 月)

【NICU 部門におけるサーベイランスの目的】

NICU 部門における院内感染症（敗血症・肺炎・髄膜炎・腸炎・皮膚炎・その他）とその原因菌（MRSA・MSSA・CNS・緑膿菌・カンジダ・その他）に関して経年的に調査を行い、出生体重別・感染症別・原因菌別の感染症発生状況を評価し、各医療機関には全体集計と比較したデータを返却し、院内感染発生の原因を探る一助とする。なお、米国 CDC が行っている NHSN では NICU におけるデバイス関連の感染症を主に扱っており、JANIS の NICU 部門とはサーベイランスの対象が異なっている。

【解説】

全国の NICU 保有の 55 医療機関から 2010 年 1 月～12 月の各 NICU における感染症データが送付され、解析した。総入院患児数は 12685 名で感染症発症者は 499 名（3.9%）であった。その内訳として出生体重別の入院患児数は超低出生体重児（～999 g）668 名、1000～1499 g 児 934 名、1500 g 以上の児は 11083 名であった。この調査の対象となった超低出生体重児や 1500 g 未満児の入院数は日本全国の出生数の約 2 割に相当している。

感染症発症頻度は体重が少ない群順に 160 例（24.0%）、69 例（7.4%）、270 例（2.4%）であった。超低出生体重児は人工換気療法や中心静脈栄養などの濃厚な治療を受ける期間が長く、感染率が高くなったと考えられた。

原因菌別には MRSA が従来どおり高く 98 例（19.6%）、次いで MSSA 47 例（9.4%）、緑膿菌 40 例（8.0%）、CNS 32 例（6.4%）、カンジダ 19 例（3.8%）、その他の菌 137 例（27.5%）で菌不明が 126 例（25.3%）であった。

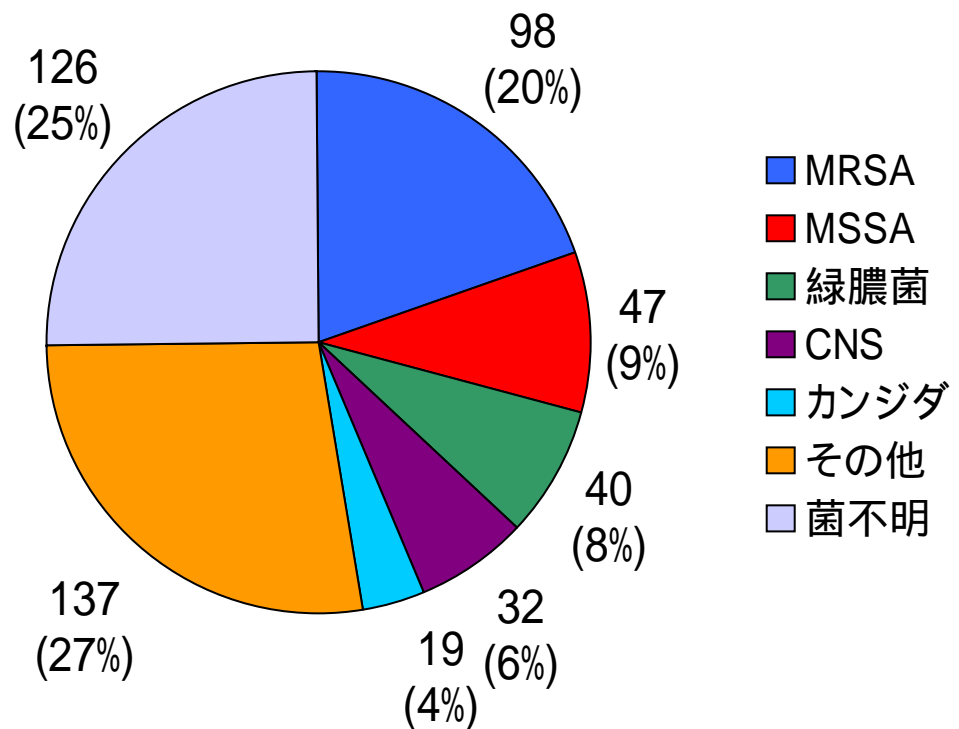
感染症別では敗血症 148 例（29.7%）、肺炎 124 例（24.9%）、皮膚炎 45 例（9.0%）、腸炎 36 例（7.2%）、髄膜炎 14 例（2.8%）、その他が 132 例（26.5%）であった。

表1 体重別入院患児数・
感染症発症患児数

体重	入院患児数	感染症発症 患児数	感染症 発生率
～999g	668	160	24.0%
1,000g～1,499g	934	69	7.4%
1,500g～	11083	270	2.4%
合計	12685	499	3.9%

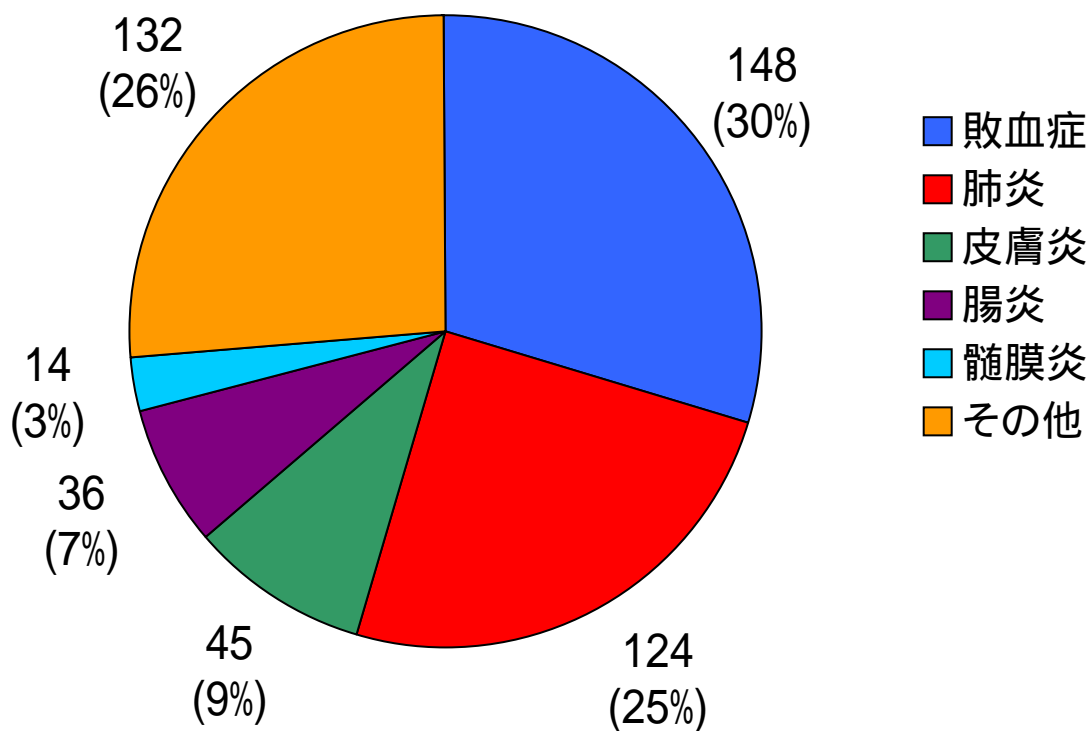
(集計対象医療機関数:55)

図1 菌種別感染症発症患児数 (N = 499)



(集計対象医療機関数:55)

図2 感染症分類別感染症発症患児数 (N = 499)



(集計対象医療機関数:55)